

「ダルマさんが転んだネコ」の思考実験

by 堀井敏之

私が、地球製空飛ぶ円盤の研究を始めて50年経ちますが、その間に飛んだと思われる装置は極めて少なく、そして一つとして完成品になってはいないのです。

私が認識している飛んだと思われる実験装置（ナチス、古代、BB効果は除きます）を記載します。

- ①ジョン・サール ←SEG
- ②ジョン・チャールズ ←レビティ・ーディスクしかしどこにも記載が無いロシア・アレクセイのyoutubeに出てくる。
- ③北海 小坂孝一 SEGに似た磁石構造ピンク色のハローに包まれて飛んだ。（井出氏談）
- ④清家新一 「実験円盤浮上せり」はガセっぽい。（飛んでないと思う）しかし
保江邦夫×井口和基「物理で語り尽くせ UFO・あの世・神様の世界」P141
「メビウス巻きの装置が一度だけパーンと飛んで行った。」との記述あり。
- ⑤ロシア アレクセイ Graviflyer 2018年8月よりyoutubeにて飛行映像配信。

このたった5つです。（他にあったら教えてくださいね。）

結局は、独自の理論で作ったらたまたま飛んだ、でもその後飛ばなくなったりや次に同じものを作っても飛ばなかった。のではないかと推測しています。再現性の無さです。

例として

ジョン・サール機のSEGはベアリングモータが存在することから可能性はあると思われますし、清家、大橋理論による解析も可能。そして、写真を見るとリム付近で制御用パネルが立っているので、これは飛行しないと分からない構造ではないかと考えます。しかしその後の写真はいかにも模型ではないかという物が多いです。

小坂さんの機械も井出さんからの情報ではSEGに似た構造で夜空に飛んで行ったそうです。私の理論は清家理論と大橋理論です。清家新一先生は生前中に成功させることはできませんでした。しかし保江先生の話では、受け継いだ人がいて「物理で語り尽くせ UFO・あの世・神様の世界」の本の中で、その人の作ったメビウスコイルが飛んで行ったということです。（これだけが希望です）

ロシアのアレクセイ機、彼の配信動画は全て釣ってるように見えインチクさいですが、装置の構造が清家、大橋理論に合致してるので飛んでいるのではないかと思ってるのです。ジョン・チャールズのレビティーディスクはこれに近くYouTubeで飛んだようなことを書いてます。

今年の初めに、アレクセイは自分が作ったGraviflyerと同じパーツを販売し、それを26万円出して買ったアメリカ人のサイトは一大祭りになりました。誰も完成したら飛ぶと思っていたからです。しかし飛ばなかったのです・・・泣。

皆さんは「シュレディンガーの猫」はご存知でしょうか？

1935年にオーストリアの物理学者エルヴィン・シュレーディンガーが発表した物理学的実在の量子力学的記述が不完全であると説明するために用いた、猫を使った思考実験です。一定確率で毒ガスを放出する装置と一緒に箱に入れられたネコは、蓋を開けて観測するまで

生きた状態と死んだ状態が重なり合っている。そして、その意味するところは「観測するまで物事の状態は確定しない」という量子力学の奇妙な考え方を説明するものなのです。私は清家理論と大橋理論で作ろうとしています、その基本理論は量子力学のスピン反転による斥力です。

「Spin Reversal Engine」

量子力学的理解が必要なのです。

「ダルマさんが転んだ猫」はこれのパロディですが、再現性の無さは要は量子力学の観測問題ではないかということです。見てないと勝手に動いていくので同じ結果にはならないので再現しないのです。「ダルマさんが転んだ！」と言って後ろ振り向くと猫は止まります。振り向かないと猫は歩いて動くんですよ。観測問題の見ると粒子！見てないと波動(動き回る)！とソックリなんです。

装置の再現性は観測者に関係してくるのではないか？という理論です。

しかし、ダルマさんが転んだも最後の方は猫が歩いているのが見れます。ここまできると完成するんじゃないかな？という希望はあるのです。